

対話こそ平和を実現する強力な武器、 岸田首相は世界に向けてリーダーシップを発揮せよ

令和6年に入りました。

ロシアのウクライナ侵攻から間もなく3年が経とうとしています。

西側諸国はウクライナに対する武器や戦費の供与を続けるばかりで、現実的な平和に向けての努力が足りないのではないのでしょうか。

国連の安全保障理事会の機能は麻痺しているように思えます。

プーチン氏も和平交渉に興味を示したというこのタイミングで、いまこそ国連が先頭に立って積極的に動き、当事国に直接交渉を行うとともに、西側諸国を巻き込んでの交渉に臨むべきだと思います。

中東で起こったイスラエルとハマスの問題も同様です。

米国は一方的にイスラエルを支持し続けるだけでなく、ここでも安全保障理事会の機能を生かし、先進諸国のリーダーたちとともに平和の先頭に立つことを望みます。

2023年7月に広島で開かれた先進7カ国首脳会議の際には、7首脳とウクライナのゼレンスキー大統領、インドのモディ首相が、岸田首相の案内で原爆記念館を見学しました。

岸田首相はそうした絶好の機会に、単に案内役を務めるだけでなく、唯一の被爆国である日本の経験を生かし、世界の平和に向けての発信をしていただきたかったと思います。

世界には50年以上戦争がなかった国はないといわれますが、日本は戦後78年以上にわたって、安全、安心、安泰な国を築き、世界の中でそれを維持してきました。

いまこそ日本は「核なき平和な世界」の実現に向けて世界の先頭に立たなければならないのではないのでしょうか。

岸田首相はその日本のリーダーとして、ガザやウクライナの地を実際に訪問し、自身の目で人々が傷つき困窮している現実の状況を見て、そして現地で世界に向けて平和の道を提案することは、世界に向けて大きな平和へのアピールになるはずです。

対話こそ、平和を実現する強力な武器、なのです。

岸田首相には今こそ世界に向けてそのリーダーシップを発揮することを願って止みません。

それは、日本が世界に向けて平和実現の先頭に立つということだけでなく、岸田政権の国内外における大きな支持率の向上にもつながるはずです。

広い視野に立ち、勇気あるリーダーシップを発揮することを岸田首相に期待します。

本誌主幹

大 中 吉 一